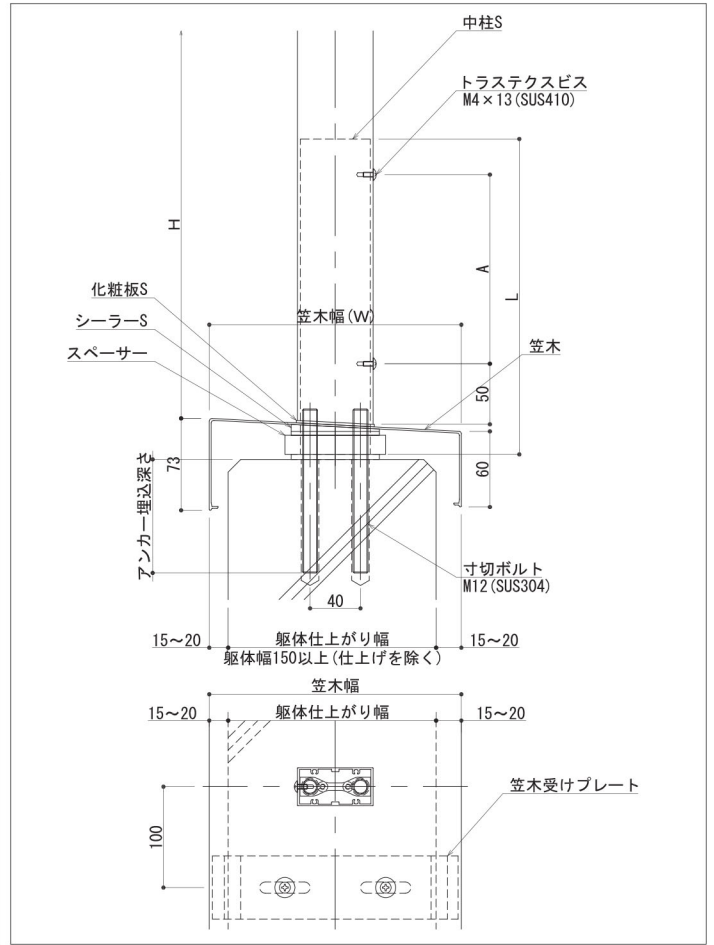
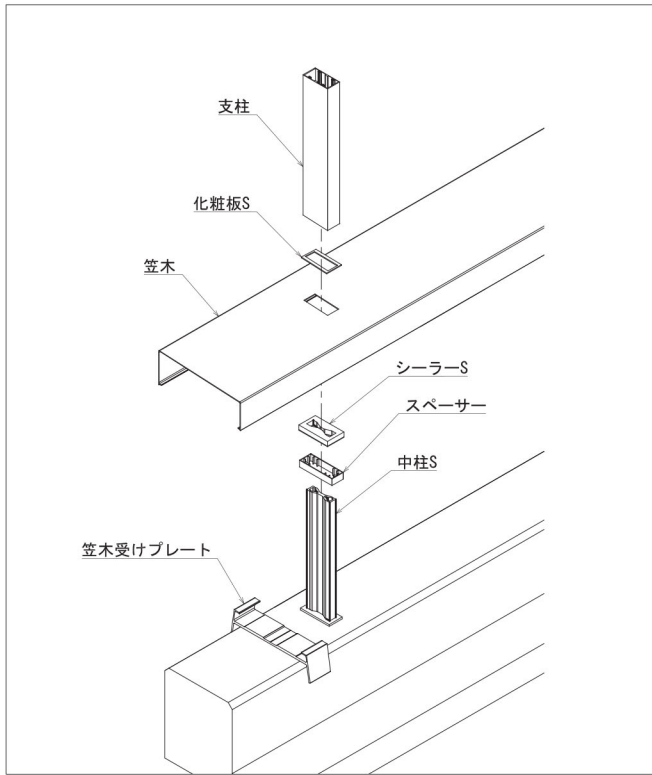


笠木付工法（樹脂アンカー工法）

- 『手すりユニット』と『笠木』を一体化したタイプです。
- 支柱固定用の専用アンカー金物をパラペット躯体に固定し手すりユニットを組付けます。
- 手すり足元の笠木は、パラペット天端を雨水や紫外線などから保護し、劣化による傷み・漏水から建物を守ります。

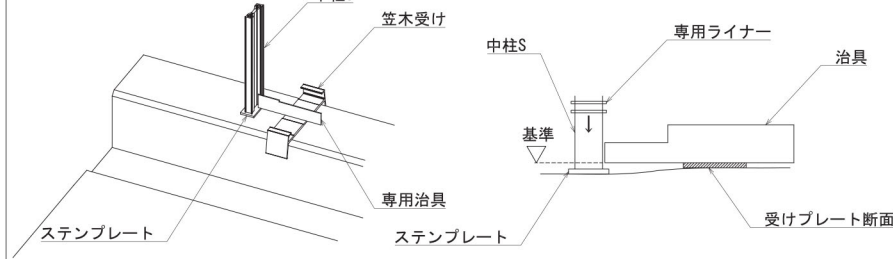


■水平荷重

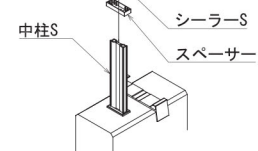
水平荷重	中柱品名	中柱寸法L	寸法	アンカー埋込深さ	穿孔	W寸法制限	H寸法制限
			A				
1225 N/m (125kg/m)	中柱S 250	250 (mm)	100 (mm)	80 (mm)	φ 14.5 × 90	W ≤ 1200	H ≤ 1200
1470 N/m (150kg/m)	中柱S 400	400 (mm)	250 (mm)	100 (mm)	φ 14.5 × 110		
2940 N/m (300kg/m)	中柱A 700	700 (mm)	550 (mm)	140 (mm)	φ 14.5 × 150	W ≤ 900	

■施工手順

- ① 手すり通り芯、柱位置、笠木受け位置の墨出しを行います。
- ② 中柱Aを躯体天端に接地するよう取り付けます。（※中柱Sの上下レベルは見なくて構いません。）
- ③ 躯体の一番高いところを基準にし、水糸やレーザーでレベルを合わせ、笠木受けを取付けます。
- ④ 笠木受けに対して、柱部のレベルを合わせます。
専用治具を用いて、笠木受け中央の天端と中柱Sのステンプレートの天端が同じレベルになるようにします。
笠木受けよりもステンプレート天端のレベルが落ちている場合は、専用ライナーを入れ同じになるようレベルを合わせてください。



- ⑤ レベル調整後、中柱Aにスペース、シーラーSを順に差込ます。



- ⑥ 笠木を嵌め、化粧板Sを中柱Sに差込、ユニットを組み付けていきます。

■設計・施工留意点

- ※ 躯体天端の水勾配には10°まで対応します。その際、支柱は、0~5°までは水平にカットし、5°を超える場合は、勾配に合わせて斜めカットします。中柱は、0°~10°まで勾配に合せ斜めカットします。
- ※ アンカー部分の引抜き、せん断強度を確保するために、十分な躯体厚、コンクリート強度の確保をお願いします。
- ※ アンカーと鉄筋の干渉しない配筋設計をお願いします。
- ※ アンカー施工後、樹脂接着剤の硬化時間内はボルトを動かさないでください。
- ※ 雨水などで孔壁が湿潤している場合は、乾燥させてから施工を行ってください。
- ※ 樹脂接着剤の充填はノズルを孔の奥まで差し込み、引抜きながら十分充填するようにしてください。充填が不十分の場合、所定の強度が得られません。
- ※ アンカー施工後、樹脂接着剤の硬化時間は温度によって異なりますので、カートリッジに記載の表を目安にしてください。
- ※ 躯体にベースプレートが接地するように施工してください。すき間があいてしまった場合は、樹脂接着剤を注入してすき間をなくしてください。
- ※ 手すり支柱とひび割れ誘発目地の位置が重なると、躯体ひび割れによる手すり落下の原因となる恐れがありますので、手すり支柱とひび割れ誘発目地の離れ寸法を100mm以上として下さい。